

鳥海山広葉樹林の探索

10月4日(木) 爽やかな風が吹く秋晴れの天気の中、酒田市草津字湯ノ台の鳥海国定公園内にある猛禽類保護センター(鳥海イヌワシみらい館)の見学と鳥海高原家族旅行村に隣接している広葉樹林の探索を実施しました。

当日は、年長組園児31名、保育園先生4名、保育園運転手1名、やまがた公益の森づくり支援センター職員1名、庄内森林管理署1名、朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター5名、総勢43名が参加しました。

保育園の玄関前で出発式を行い、本日の日程や安全確保について話をしました。また、式では本日のゲストで森づくりアドバイザーの白壁洋子氏を紹介し、白壁さんのことを「壁さん」と呼んでほしいという本人の希望があり、園児の皆さんから「壁さん、壁さん」と元気な声が掛けられました。保育園のバスに乗った園児の皆さんは、「壁さん」の話を聞いて早速、質問せめにしてバスの中は盛り上がりました。

猛禽類保護センターでは、事務員の相馬さんと村上さんが園児達を温かく迎え入れてくれました。センターでは、猛禽類(ワシ、タカ、ハヤブサ等)の生態などの説明を聞き、イヌワシのビデオシアターでは、「ウオー、キャー」などテンションが上がりっぱなしでした。園児達からは、イヌワシは「大きくてカッコいい」と声があがりました。また、園児全員がクマタカの巣に乗ってポーズをしました。改めて鳥海山の自然の豊かさを感じていました。

次に、広葉樹林の探索に向かいました。登山道の入口では、「血止め草」「バカ(草の実)」の説明を聞いて、「僕も、私も見たい!触りたい!」などテンションは上がりっぱなしで、昼食場所に時間どおりに着けるか心配になりました。鳥海山での宝物を探すべく、目を輝かせて広葉樹林内を見つめていました。暫くすると、園児の皆さんから、「ドングリ、キノコ見つけたよ」、「このキノコ食べられる」、「この花綺麗だよ」などと喜びを表したかん高い声があちこちであがりました。壁さんからはモミジの種を使った遊び、「ヘリコプター」を教えてもらい挑戦しました。今年はアキグミの実が少なかったのですが、何人かの園児が口の中に入れてました。「シブイ味がする」と顔をしかめてしました。次に見つけたのが山栗です。栗のイガを手のひらに触れて「痛い」と声を上げる園児もいました。広葉樹の散策も終わりに近づいたところ、たわわにドングリの実をつけたミズナラの木を発見しました。今年のドングリはとにかくデカイものばかり。園児全員から「採ってちょうだい」とせがまれ、園児達のビニールの袋は、鳥海山からの贈り物でいっぱいになりました。

昼食は、家族旅行村のホビーハウスの外の芝生で食べました。お母さんやおばあちゃん、中にはお父さんから作ってもらったという園児の皆さんのお弁当はどれも親や家族の温かさを感じさせるものばかりで、食べている園児の顔は幸せいっぱいでした。

午後から、「壁さん」によるネイチャーゲーム「これなあーに」「これと同じものを探そう」を実施し、鳥海山の自然や草花の不思議に触れました。

最後に、鳥海山をバックに記念撮影を行い「鳥海山広葉樹林の探索」を終了しました。

